



県大 SDGs NEWS Vol. 06 2018 October-2

地域共生センター 発行

びわ湖環境ビジネスメッセでSDGsへの取り組みを紹介しました。

10月17日～19日の3日間、長浜バイオ大学ドームで開催された、びわ湖環境ビジネスメッセ2018に出展し、特設ブース「SDGsコーナー」の中で、滋賀県立大学のSDGsへの取り組みを紹介しました。

近江楽座での学生の皆さんの活動や夏期集中講義「SDGsと滋賀のグローバルイノベーション-近江の暮らしとなりわい」の様子などを中心に展示し、県大が行っている教育、研究、社会貢献活動とSDGsの関わりについてアピールすることができました。

びわ湖環境ビジネスメッセは西日本最大規模の環境産業総合見本市であり、今回で21回目を数えます。環境活動やビジネスに取り組む272の企業・団体により、環境製品、技術、サービス、ビジネスモデルが一堂に展示されていました。

今年は、新企画のひとつとして、経済・産業界でも注目され始めているSDGsが取り上げられ、特設コーナーが設けられました。このSDGsコーナーの中で、県大のSDGsの取り組みを紹介する機会を得て、教職員に加え、学生の西田朱里さん、薙井円香さんにも協力してもらい、滋賀県立大学 SDGs Action の紹介をしました。

初日は、一般開場に先立ち、開会式が行われました。三日月知事をはじめ、来賓の方々からのご挨拶があり、多くの関係者参列の中、盛大な幕開けとなりました。

開会式後、三日月知事が県大ブースの見学にお越しになり、4回生の西田さんが中心となって説明の対応をしてくれました。県大の特徴のひとつは、多くの学生が主体的に地域と関わっていることです。そのことを学生から説明することで、知事にも“県大らしさ”を伝えることができたのではないのでしょうか。また、午後には由布副知事にもお立ち寄りいただき、展示を見ていただきました。



今回のびわ湖環境ビジネスメッセでは会場内でSDGsに関するセミナーがいくつか開催されていました。そのセミナーに参加された方が県大のブースで足を止め、展示を興味深く見て、質問をされる姿も多く、企業や団体にもSDGsが浸透し、注目されていることが感じられました。一方で、「今日、初めてSDGsという言葉を知ったのですが、簡単に言うとどんなことですか?」という質問を受けることもあり、大学がSDGsの地域化を促進するために貢献できることも、まだまだ多いと実感しました。

展示では、県大で15年に亘り、延べ6,500人以上の学生が地域に入って活動してきた近江楽座の取り組みや、SDGsをテーマに開講した夏期集中講義の様子を中心に紹介しました。ブースに立ち寄っていただいた来場者の方は、学生が主体的に地域課題解決に向けたプロジェクトを企画・推進する行動力や、授業中のワークショップで、SDGsの課題に対して自分たちがやるべきこと、できることを考えて具体化する発想力に感心されていました。

会場で出展されていた企業や団体の方々にも多くお越しいただき、情報や意見を交換することができました。SDGs達成に向けた具体的なアクションの中で、学外の活動との協働を積極的に行うことも、イノベーションを創発するには重要であると感じました。



今回の出展を通じ、多くの人とSDGsについて語り、考える機会を多く得られた3日間でした。これがSDGs達成への新たな動きに繋がって行くよう、地域との連携と協働をさらに進めることが重要です。

滋賀県立大学がSDGsへの取り組み拠点となり、多様な主体が集い、つながる、プラットフォームになるよう、全学を挙げて協力していきましょう!